



保育關係文献解説 (一)

愛育研究所
教育養部

竹 田 俊 雄

一 はしがき

保育ということがこの國に行われるようになってかなりの年月を經ている。しかし、これを學として研究しはじめたのは、一般にはまだ日が淺い。保育學ないし保育理論は科學としてはなお幼いものである。それにもかかわらず保育の重要性は、保育を科學的、組織的に研究することを要請している。學校教育法において幼稚園が教育組織の一階梯として確立してから、また兒童福祉法において保育所をはじめとして各種の兒童福祉施設が法的な基礎をもつてから、保育に關する學的な關心は著しく高められた。殊に保育に従事する人々は、その日々の實踐を、心に満足するように行つたためには、どのような勉強をしたらよいかという問いを、しばしば私どもに寄せられる。いろいろな講習會の折に、あるいは手紙で、あるいは直接に面接されて求められる熱心な問いに對して、私は保育關係文献という數葉のリストを用意するようになっていたのであるが、ここにその主要なものに簡単な解説を加えて

讀者の參考に供したい。
ここに掲げるものは戦後新版、または再刊された保育關係の單行本である。戦前あるいは戦時中刊行されたものにも、保育の研究のために必讀のものももちろんあるのであるが、入手の便を考えて、これらはここには割愛することとする。また、雜誌等に現れた重要な論文については追々にこれをまとめて同様な形式のものにしたい。よい保育を行うためには、保育者は人文科學・社會科學・自然科學の廣い分野にわたつて教養をつまなければならぬのであるが、これらの部門でどんな本を読んだらよいかということは、この標題の下で扱うにはあまりに問題が大きすぎる。ここには範圍を限定して保育理論・保育の各分野・兒童心理學等を中心とし、教育・社會事業・生理・保健衛生・榮養・看護等に關するもので保育者のための良書と認められているもの若干をこれに加えて解説したい。なお保育という言葉は通常は幼稚園保育所等における乳幼児保育を指すので主としてこの範圍を扱うが、兒童福祉法では養護施設・精神薄弱兒施設等の保育をも含めて

いるので、時に應じてこれらのものにも言及する。

解説にあつてはその文献の性格や程度を示すために、教養向・専門向・一般向等の言葉を用いようと思うが、教養向は保育にあたるものの基礎的教養として讀んでいいものであり、専門向はさらに研究を進めるために必要な文献である。また一般向は特に保育従事者のみを対象にして書かれたものでなく、児童の父母も、保母や教師とともどもに讀むに適した本である。(なお附記した定價はできるだけ最近のものを掲げたいと思つたのであるが、多少變動しているものもあろう)

二 保育一般

文部省

「保育要領」(昭和二十二年度試案) 師範學校教科書株式會社

昭和二十三年

A5一〇七頁

五圓五〇錢

「幼児教育の手びき」というサブタイトルをもつ、幼稚園教育の實際についての基準を示すもの。學校教育法施行規則にかかへてある保育要領がすなわちこの書である。まえがき・幼兒期の發達特質・幼兒の生活指導・幼兒の生活環境・幼兒の一日の生活・幼兒の保育内容・家庭と幼稚園の七章より成つてい、新しい教育理念にもとずく、保育のあり方を示して、ただに幼稚園のみならず、保育所等においても参考となり、すべての保育従事者が必讀すべき教養向のものである。文部省として幼児教育の内容をはじめて明らかにしたものであるだけに、試案としてある通り、その理念の具體化にあつ

つていささか明確を缺く點もあり、あまりに入門的なところもあるが、すべてはここから始まるといえよう。

倉橋惣三

「幼稚園雜草」

昭和二十三年再刊 B6四五〇頁

一八〇圓

乾元社

東京女高師教授である著者が、附屬幼稚園の中で經驗したところを隨想的に書いたもの。はじめ雜誌に掲載した七十餘篇を、園丁雜感・森の幼稚園・幼稚園の生活・幼兒の教育者・幼兒教育小觀にまとめてある。保育者の態度、幼稚園のあり方、幼兒保育の性格が、あるいは具象的な描寫の中に、あるいは直覺的な言葉によつて示されている。論文調のものも若干は含まれているが、この書を中心はここにないようである。これらの中には發表後四十年を経ているものもあり、今日の眼で見ると、一つ一つが珠玉のような古典であるが、保育の遅々とした歩みはこの書を第一線に置かせる。永遠に新しいものが表現されていたためであらうか。教養向。

小川正通

「新しい幼児教育のために」(新保育叢書一)

昭和出版株式會社

昭和二十三年

B6一三四頁

八〇圓

新しい保育の理想や、形態について、奈良女高師教授であり、附屬幼稚園主事である著者が種々の雜誌に發表した論文を集録したもの。保育の新理想・新制幼稚園の構造・新保育への要望・保育要領について等九つの論文と附録として「小

學階梯について」および繪本の母のためのページ等に書いたものを含んでいる。雑誌に發表されたものであるだけに、時事的な叙述の仕方が多く、問題の扱い方に中間報告的な傾きが見られるが、新しい幼児教育の方向を指し示している點、保育者や保育問題に關係ある人々の讀むべき教養向の文献である。

「保姆ノ一ト五」

日本社會事業協會

昭和二十四年

A 5 六四頁

五〇圓

副島ハマ「保育の在り方」と大阪市民生局提供「保育所保母の手引」の二編が掲げられてある。

「保育の在り方」は、兒童福祉法という保育の意義を明らかにし、個別保育の重要性を説き、收容施設の保育にも少しく蝕れているが、主として保育所の保育について述べ、保育上注意すべき事柄を擧げている。

「保育所保母の手引」は、エリアノ・ホスレイ「託兒所勤務初心者に對する手引」を要約したもので、ケース・ワーカー、看護婦および醫師、保母の職務、こどものもつ問題の處理、基本的習慣や遊びの指導について述べている。

前者はきわめて概略であり、後者は箇條書き的であるが、よく保育所保育の要點をとらえて、類書の乏しい今日、教養向の文献である。

根岸草笛

「農村幼児保育」(保育叢書二四)

巖松堂

昭和二十三年 B 6 一六一頁

一一〇圓

新潟で農村保育の豊かな體驗をもつてゐる著者が、農村においてはいかに幼児保育を行うべきか實際的な立場から記したものである。郷土に即する工夫・保育案の研究・幼児保育の實際の三章から成り立つてゐるが、第三章は全ページ數のおよそ半ばを占めて、保育の目標・保育所の一日・朝の注意・自由遊びの時の注意・お午睡の注意等詳細に具體的な叙述がなされている。たゞ保育項目の章は幼稚園令時代の五項目が説明されているから讀者はその積りで讀むことが必要である。教養向。ここに書かれてゐる精神と技術とは都會の幼児保育者にも有益である。

根岸草笛

「農村乳兒保育」(保育叢書一三)

巖松堂

昭和二十三年

B 6 一六一頁

一一〇圓

同じ著者の「農村幼児保育」の姉妹篇。保姆魂に燃えて、乳兒保育所開設の準備・乳兒保育の實際・保育所實習日誌・母性保護と母性指導の五章で、乳兒保育を非常に具體的に説いている。あえて農村に限らず、すべての乳兒保育者のための教養向圖書。

「保姆ノ一ト四」

日本社會事業協會

昭和二十四年

A 5 五五頁

五〇圓

松島正儀「兒童福祉收容施設の保姆」横山美智子「子供のころ」の二篇を収めている。なお「保姆参考圖書一覽」を附してある。

「兒童福祉收容施設の保姆」は、養護施設その他における對

象兒童の特質を述べ、施設をどのようなところとすることも感
じさせるように保育しなければならぬかを説き、このよう
な收容施設の保育のあり方を示している。「子供のころ」は
著者の兒童期を回想し、その幼い眼に映じた母・父・教師・
友人を文學的に描寫して、兒童の心理を教えている。

前者は收容施設の保育を概観している點でここで保育に従
事する人々の指標とならう。教養向。

倉橋惣三

「育ての心」(新版)

昭和二十三年再刊

B 6 三九二頁

一八〇圓

乾元社

子ども達の中にある・母ものがたり・子どもの癖しらべ
子どもの心・いろいろの子ども・子どもの相手・名畫の子ど
もと大見出しをつけた百篇近くの文を集録したもの。著者一
流の感想の形で、幼稚園や家庭におけるいろいろな具體的場
面をとらえて、子どもを見る眼、子どもに向う態度を教えて
いる。自ら育とうとするものを育てずしてはいられなくなる
心、それは同時に育てるもの心も育てるといふのが、その
中心的な理念である。この明るさが戦後の今日この書を再刊
させている。我々の周囲にはもつと暗い場面もあるが、常
に光を見つめよとこの書は説くのである。教養向、一般向と
して保育者も親も熟讀すべきもの。

恩賜財團母子愛育會編

「愛育のころ」(改訂版)

昭和二十四年再刊 B 6 二七一頁

三省堂

二五〇圓

乳兒から就学前までの子どもの心身の發達と、養護・教育
を述べて、完全な愛育への指針としたもの。保健・教養の兩
篇に分れ、前者は出産・新生兒・乳兒の身體發育・乳兒の榮
養・乳幼兒の養護・幼兒の身體發育・幼兒の榮養・乳幼兒の
病氣とその豫防・愛育科學の樹立、後者は乳兒の精神發達・
幼兒の精神發達・良い習慣・遊びと玩具・幼兒の感情と社會
性・幼兒のものの考え方とその知恵の導き方・特殊な子供の
各章を含み、序説とむすびの言葉で總括してある。執筆者は
すべて愛育會・愛育研究所の關係者、一般の母性を對象にし
て書かれているが、保母等にも参考になるように編纂され、
一般向、教養向といえる。かつて刊行されたものの改訂版で
まったく書き改められた部分もあるが、執筆者により假名遣
等の不揃いなのは少々目障りである。

「保母ノート三」

昭和二十四年

A 5 四五頁

五〇圓

日本社會事業協會

小林彌八「保母の資格」鳴海碧子「保母の教養」の二編と
熊谷元一「紙芝居、うさぎ文庫」を載せている。

「保母の資格」は兒童福祉法でいうところの保母の資格はど
のようなものに與えられるか、保母養成および保母試験はど
のようになされるかを法規的に解説している。

「保母の教養」はこどもを歌つた詩などを挙げて、こどもの
見方を保母に教え、こどもの心で考えることが何より大切で
あると説いている。

前者は兒童福祉法による保母になる人が常識として知るべ

きもの、後者はロマンティックな表現の中に保育者の心構えを示すものといえる。

村山貞雄

「兩親教育學」(保育叢書七)

昭和二十四年 B6二四二頁

巖松 堂

幼稚園や保育所において兩親教育をいかに行うべきかを説いたもの。兩親教育の地位・兩親教育の目的と内容・兩親教育の主體と客體・兩親教育の方法・兩親教育の物件ときわめて組織的に書かれており、從來必要にせまられてなされて来た幼児の兩親の教育について、種々の資料を駆使して一應の體系をたてている。母親講座の實例の表や附録の參觀要領など、實際家にとつて非常に親切にできているが、幼児學校・擴大面接等の術語や行文にやゝ生硬さが見られる。慣習的に母の會を開いて来た保育者など、これによつて考え方を整理して見るとよい。教養向。なお著者は愛育研究所員・東京理科大學助教である。

古木弘造

「幼兒保育史」(保育叢書三)

昭和二十四年 B6一五三頁

巖松 書

日本における幼稚園・および保育所の發達の歴史を述べたもので、最初の幼稚園・搖籠期の幼稚園・子守學校・幼稚園の發展・託兒所及び季節保育所の五章から成つてゐる。幼兒保育施設としての幼稚園および保育所がそれぞれどのような機運によつて發生し、それが今日の兩者の性格を規定する條件

となりつつ、どのように進展したかが述べられていて、これの理解は保育の諸問題を扱う上に役立つところが少くないであらう。また先覺の勞苦は保育者の魂をゆり動かすものがあるう。たゞこの書は執筆の時期の關係から新しい學校教育法による幼稚園や、兒童福祉法による保育所には言及してはいない。著者は東京大學助教。専門向。

新潟縣民生部兒童課
新潟兒童福祉協會

「保育所ハンドブック——一、保育編」

昭和二十四年

B6六六頁

非實

新潟縣で常設保育所や農繁期保育所に従事する人々のために編纂したハンドブック。内容の主な部分をなす「農村幼兒保育の實際」は根岸草笛(まつえ)の「農村幼兒保育」の一章をら概ね轉載したもので、これに新潟軍政部マリー・ルウの「保育所における對策」という講演がつけ加えられている。

發行所

所在地

師範學校教科書株式會社 東京都千代田區神田錦町一ノ一六
乾元社 東京都文京區元町一ノ一五

昭和出版株式會社 大阪市南區内安堂寺町二ノ一六

日本社會事業協會 東京都澁谷區原宿三ノ二六六

巖松堂 東京都千代田區神田神保町二ノ二

三省堂 東京都千代田區神田神保町一ノ一

新潟縣民生部兒童課 新潟市學校町一 新潟縣廳内